

出された意見の要旨及び県の考え方

番号	意見の要旨
1	川棚川の治水安全度1/100は、既に「川棚川水系河川整備計画」（基本方針）の中で策定されていると承知しているが、その設定の根拠について、説明を追加する必要があるのではないか。河川管理者として、県内バランスを考慮した統一的な考え方があるのであれば、しっかりと記載しなければ誤解を招くことになる。特に、長崎県は諫早大水害や7.23長崎大水害など幾多の水害を被ってきたため、河川管理者が治水対策や公共施設の災害復旧を担っていることを忘れて欲しい。
2	治水代替案の河川改修案を「引堤案」「河道掘削案」など、対象区間を一律に評価しているが、組み合わせ案も追加する方がよい。
3	代替案の比較については、国が残事業費で評価することを条件として明示しているのであれば、治水の観点から河川整備計画で目標としている治水安全度を確保するためには、現行ダム案が経済的であると評価せざるを得ない。
4	経済的な考察に加えて、環境、人の平等などについての考察も必要。コストベネフィットの場合も、その結果をもとに環境、公平の価値を加えた議論を進めてほしい。
5	地域の開発と発展は、地域の住民が主体となって進められるべきもので、県民の間での共通の将来像のもとでの協働が重要。そのような意味では、これまでの経緯については残念に思う。これからも、県民の間でのコミュニケーションを十分に図り、長崎県民の間で不幸な混乱が生じることのないよう行政を進めてほしい。
6	そのようなコミュニケーションに際しては以下のようなことも、考慮に加えてもらいたい。 人口減を考慮すると佐世保市の水不足はどの程度の期間継続するのかを考慮し、その間のための水源開発及び取水導水浄水配水等の投資による市民の負担はどのようになるのか。そのような見通しを佐世保市民に見えるようにする。
7	治水については 水利についての情報を踏まえた佐世保市民の意向を踏まえたうえで、他の工法の組み合わせは検討できないか
8	環境アセスメントの結果によると移植を行うことなどから影響は少ないということだが、最近では生態系サービスの評価手法が追加されてきている。新しい評価方法であるため、現時点では、長崎県のアセスメント条例や県内で実施した事例はないが、今後、確立される手法と考えている。
9	水源林の保全について、森林の中身、構造の面から評価してほしい。落葉樹、針葉樹などによって効果が違う。
10	川は氾濫をおこすものという認識が必要である。1947年の航空写真を見ると、川棚川流域で氾濫源には家屋がない。そこに堤防ができると人が住むようになる。これから人口は減っていくため、家屋の規制や氾濫を許容する計画が必要と考える。
11	河道内の植物は、洪水等による攪乱が必要である。ダム案は、これらがよく問題となる。洪水等で攪乱されることにより生態が維持される一面もある。大きな河川では河川整備などがなされ、攪乱がなくなったため生態系が破壊された例もある。
12	どのダムでもダムは反対というわけではなく、石木ダムについては賛成である。
13	佐世保市には水はなく、長崎市と比べても余裕率は低く渇水に陥りやすい。工業団地等では水が必要である。工業用水の確保に不安があるようなところには企業も来ない。

出された意見の要旨及び県の考え方

番号	意見の要旨
14	25万の人口を有する佐世保市が、たびたび給水制限の危険にさらされているのはどうかと思う。ダム建設により、環境が多少破壊されることもあるかもしれないが、それよりも渇水被害や洪水被害に対するダムの効果のほうが大きいと思う。
15	石木ダムでの治水効果や安全な水を確保することは妥当であると考え。
16	温暖化で気候が変わってきている。さらに長崎は雨水がすぐに流出し、水の確保が難しい地形である。ダムで貯めることにより安定的に水を確保することは有効である。
17	環境が壊されるという意見に対しては、50km以上も延長があるような河川でもないし、ダム湖の上流に自然が残るため、そんなに大きな影響はないと考える。下流河川の整備において親水性への配慮が行われればよい。
18	現行石木ダム案は関係河川流域の農業用水に与える影響はないため、現行ダム案は妥当と判断する。
19	農地防災上も100年に1度の計画規模の整備は必要と考える。特に、水にせよ水害にせよ人の命に関わることであるため、行政はこれに対応すべきである。
20	代替案の遊水地案や貯水池案は、圃場整備も完了し、農家の複合経営を推進している現状であるため、現実的な計画ではないと考える。
21	経済学の立場から判断することになるが、現行ダム案のこれまでに投下された費用、これから必要となる費用を考えると、他の案より現行ダム案が低コストで妥当と考える。地元の方との調整に留意して欲しい。
22	他の代替案（河川改修案）では維持流量が確保されないが、現行ダム案により、下流の維持流量が確保されることは、大切であると考えている。
23	利水面では漏水があるため有効率を上げるという意見がいくつか上がっているがどう評価しているのか。
24	佐世保市の水の使用量については、どう評価しているのか。
25	平成2年の水害で氾濫したところは、宅地化されていると言った意見があるが問題がないのか。
26	計画高水流量を、1130m <sup>3</sup> /sまで下げてもよいという意見もあるがどう評価しているのか。
27	核家族化等による必要水量の増加が見込まれているが、人口減少も勘案されているのか。
28	地域振興について、現行計画のみに活性化が期待できることの説明を加えなければ、一般の方にはわかりにくく、誤解を招く可能性がある。
29	代替案と比較する際、建設コスト面で比較することは、ひとつの方法であり妥当である。それ以外の面（環境の価値、人命の価値など）で比較しようとする主観が大きく入ってくる。県民みんなが納得するような気運にならない限り、評価は難しい。